

# 令和4年度

# 1学期学校評価(職員)

【評価:とてもよい4 よい3 もう少し2 改善を要す1 3.3以上 ■ 2.7以下 ■】

観点		評価項目		自己評価		○成果 ●課題	改善策(自己評価2.8未満)
		内容		項目	総合		
I 信頼される開かれた学校教育の推進	学校教育目標	1	学校教育目標の達成にむけて、PDCAサイクルに沿って共通理解・実践がなされている。	2.9	2.6	○行事の実施ごとに反省を出し合い、次回に向けての改善を図るようにしている。 ●登校時のあいさつはよくなっているが、個人のあいさつや揃えてするあいさつに課題がある。大人がしっかりとした手本を見せたい。どんなあいさつを子供にさせたいのか具体的な姿がはっきりしない。	◇具体的な場面でのどのようなあいさつをすればよいか示す。(全校朝会等でモデルを示す。「自分から、大きな声で、目を見て」のカードの教室掲示と家庭への配布。) ◇あいさつをされたらあいさつを返すことも意識付ける。 ◇児童会にあいさつ運動に取り組みさせる。
		2	一学校一改革「相手の心に届くあいさつ(自分から相手の目を見て)」の実践がなされている。	2.3			
	家庭・地域連携	3	学級PTA、PTA専門部活動及び学校保健委員会、家庭教育学級等、保護者と協力・連携図られている。	3.1	3.3	○地域社会・家庭との連携が取れている。保護者の行事参加率が高い。 ○相撲学習やチョイのチョイ踊りは地域の方々が丁寧に指導をしていただき、子供たちも楽しみながら伝統を引き継ぐことができている。	
		4	学校支援ボランティアの活用や地域との連携を通じた地域の特性を生かした教育活動がなされている。	3.4			
	・ 関係団体連携	5	幼保小、小小、小中連携やSC、巡回相談員等との関係機関との連携が図られている。	3	3.1	○3月、入学する保育園児の様子を見ることや新入生が学校に来る交流などを通して、子供の様子を詳しく知ることができた。また意見交換をすることで情報の共有ができた。 ○ICT活用についての校内研修が充実した。夏季休業中の研修会にも積極的に参加するようにしている。	
		6	校内研修や各種研修会、自主学習等を通して、教職員としての資質向上に努めている。	3.2			
	教職員の資質向上	7	学校全体として1アクション(ICTによる校務の効率化)、各自の1トライ(実践事項)により業務改善がなされている。	2.9	3.3	○ICTを活用したペーパーレスなど業務改善に向けた工夫が進んでいる。 ○定期的に服務研修を行い、意識を高めてきた。	
		8	常に教育公務員であることを自覚して信頼される行動を心掛けている。(飲酒運転の禁止・交通安全・情報管理・金品管理等)	3.6			
II 確かな学力の定着	9	「前之浜スタイル」によるわかる授業づくりを実践している。(「前之浜スタイル」による学び、効果的なICT活用)	3	3	○ICT機器の効果的活用により、集中して学習する姿も見られた。 ○毎日の宿題・日記に取り組むことで、漢字や文を書く力、計算力がついてきている。		
	10	基礎的・基本的事項の確実な定着を図っている。【単元テスト80%以上】(めあてとまとめの板書、小テスト、個別指導・補充指導)	3				
	11	各学年に応じた情報活用能力の育成がなされている。(ICT機器活用、プログラミング教育、情報モラル教育)	3				
	12	家庭と連携した個に応じた家庭学習の充実が図られている。(10分×学年+20分、内容の充実、読書習慣の定着)	3				
III 豊かな心の育成	13	全職員による生徒指導態勢をとり、早期発見・早期対応に取り組んでいる。(心の教育推進委員会等)	3.1	3	○心の教育推進委員会で、気になる子供の情報共有ができています。日常的な情報共有もできたらよい。 ○読書祭りでは、図書委員会の子供を中心にイベントを実施し、本に親しんでいる姿が多く見られた。読書郵便で、児童同士だけでなく、児童⇄担任や他の先生たちとの郵便のやり取りがあり微笑ましかった。		
	14	一事徹底事項の指導と見届けがなされている。(あいさつ、思いやりのある言動、「前之浜小の子供の一日」の徹底)	2.8				
	15	保護者・子供と計画的・意図的な教育相談がなされている。	3				
	16	道徳科を中心とした道徳性の育成がなされている。(道徳科授業の充実、各教科・活動(緑化活動、ボランティア活動等との関連)	3				
	17	読書活動の充実が図られている。(読書環境や行事の工夫、読書目標冊数の達成)	3.1				
	18	学級活動、係・委員会活動、縦割り活動、学校行事等において子供の個性やよさを引き出す場の設定がなされている。	3				
IV 気力・体力の向上	19	教科体育等を通して体力・運動能力の向上がはかられている。(「一校一運動」なわとび、「ちょとレ運動」)	2.7	2.7	●約2か月の水泳学習を通して泳力の向上が見られたが縄跳びやその他の体力づくりの取組の継続は十分ではなかった。 ●感染症対策についての意識づけを再度行う必要がある。家庭での生活リズムが整わない児童がいる。 ●遊びのルールを守れなかったり、交通安全に対する意識(自転車の乗り方など)が低かったりする児童がいた。登校時、集合時間が揃わずばらばらに登校する班があった。	◇2学期以降、運動会・持久走大会等の行事を通じた体力づくりに取り組む。 ◇縄跳びカードを作成し、一校一運動・ちょとレ運動に取り組む。 ◇2学期始め、児童・保護者に基本的な感染症対策について資料提示し再指導を行う ◇9月16日、学校保健委員会で栄養教諭による講話を予定。 ◇特に自転車の乗り方について、学期始めに指導を行う。 ◇集団登校の意義を再度指導する。 ◇保護者にも協力を依頼する。	
	20	月目標や健康診断結果をもとに、基本的健康習慣の定着がなされている。(早寝・早起き・朝ご飯、う歯治療率100%等)	2.6				
	21	防災教育、避難訓練、安全指導等を通して危険予知能力や危険回避能力の育成がなされている。	2.7				
	22	学校施設・設備の点検・対応や感染症対策等、安心で安全な教育環境づくりに努めている。	2.8				